

No.92 上肢(肘、前腕、手関節)の手術を受ける患者の皆様へ

ID @PATIENTID

氏名 @PATIENTNAME

月日	/		/		
経過	入院当日・手術前日		手術当日(術前)	手術当日(術後)	術後1日目
目標	手術について理解できる		手術について理解できる	疼痛のコントロールができていない 創部に問題がない 日常生活の注意点について理解できる	疼痛のコントロールができていない
治療 処置	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より使用している薬を入院時に看護師がお預かりします。すぐに取り出せるところにご用意ください。(目薬や貼り薬、塗り薬も含む) ・抗凝固薬や抗血小板薬を飲んでいた場合は、手術のために引き続き中止します。 ・眠れないようでしたら、消灯までに看護師へお申し出ください。 		<ul style="list-style-type: none"> ・6:30に指示薬のみ内服します。 ・ご自身の寝衣のまま、手術室へ行きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素マスクは指示があるまでつけておきます。 ・尿道に管が入ってくる場合があります。術翌日に抜去します。 ・血栓予防のため両足にフットポンプを装着します。 ・痛みがあるときは、痛み止めを使用できます。看護師までお知らせ下さい。 ・病室に戻ってから、看護師が適宜検温に伺います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術部位、傷の状態によって退院日は異なります。 ・点滴が終了次第、針を抜きます。
検査 測定	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日体温や血圧を測定します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手術前に検温を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病室に戻ってから、看護師が適宜検温に伺います。 	
入院生活	食事	<ul style="list-style-type: none"> ・21:00以降食事をすることができません。 ・飲水は別途指示が出ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、食事はできません ・飲水は別途指示がでます。 ・洗面やうがいをを行うことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲水は酸素終了後、または医師の許可が出てから可能になります。 ・手術当日は禁食ですが、医師の指示により食事が開始される場合もあります 	
	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・三角巾での固定を行う場合があります。 ・活動の制限はありません。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ベット上安静です。 ・医師の許可により酸素終了後、活動開始する場合があります。 ・手術した腕は装具や三角巾固定をする場合があります。 	
	清潔	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワー浴を行います。(自宅で入ってきていただくことも可能です) ・三角巾で固定されている方は、シャワーの時に外すことができます。看護師に確認してください。 ・爪を切り、ジェルネイル、マニキュアは落としてください。 		<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の固定や傷を濡らさないようにシャワー浴を行うことができます。 	
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・入院日までに主治医から手術の説明があります。 ・同意書はサインをして看護師にお渡しください。 ・看護師より入院生活や手術前後の生活、注意事項についての説明があります。 ・薬剤師より内服薬、点滴について説明があります。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手術する部位に印をつけます。 ・入れ歯、湿布、ネックレス、指輪、ウィッグなど身につけているものはすべて外してください。 ・手術室まで眼鏡を装着できます。ケースをご持参ください。 ・金庫の鍵は付きそいの方か、担当看護師にお預けください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族は原則、手術室前の控え室か病棟でお待ちください。 ・術中、術直後は連絡が取れるようにしてください。 ・手術終了後、ご本人やご家族に手術後医師より手術について説明をいたします。 	<p>★退院後の生活について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①傷を濡らしたり、ぶついたりしないよう気をつけましょう。 ②傷の痛みは徐々に落ち着いてきます。必要に合わせて痛み止めを使いましょう。 ③急な発熱、新たな出血、浸出液が認められた場合は、連絡の上必要時外来を受診して下さい。 ④自宅でのリハビリは、医師および理学療法士の指示に従い行いましょう。

※状態に応じて予定が変更になる場合があります。 ※この用紙は入院時にお持ちください